

# 機 関 誌

胸部外科学会創立頭初は会員数も少なく財政の問題もあって機関誌は発行されなかった。その代り南江堂の胸部外科が準機関誌に指定されていたが、第4回には会員数も1,000名をこえたので、第5回総会において日本胸部外科学会雑誌を発行することになった。発行号数も始め季刊であったものが第4巻より月刊となった。13号とあるのはその中の1号は総会号である。ただし総会号は通

図11 原著の内容 (1082題)

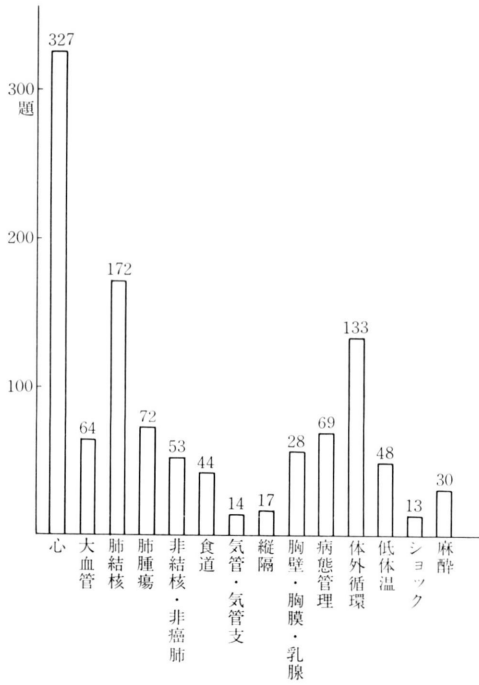


図12 総説の内訳

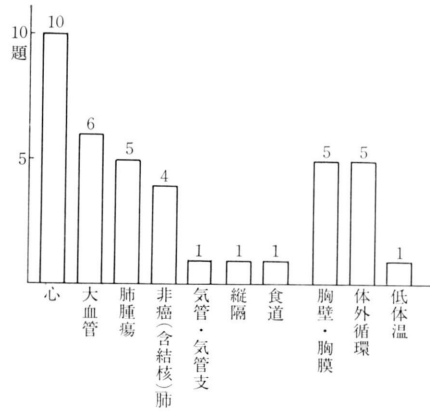


図13 症例報告の内訳

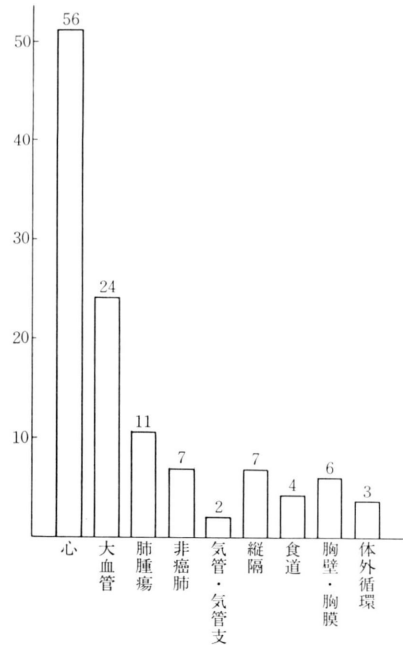


表16 胸部学会雑誌発行状況

巻	発行号数	頁 数	綜 説	原著数	症例報告	発 行 年 月
1	4	236	0	3	0	28. 3～28. 10
2	6	489	0	24	0	28. 10～29. 10
3	8	808	0	43	0	29. 12～30. 10
4	15	1455	0	61	0	30. 12～31. 12
5	13	1224	0	46	0	32. 1～32. 12
6	13	1285	0	45	0	33. 1～33. 12
7	13	1440	0	70	0	34. 1～34. 12
8	13	1316	0	44	0	35. 1～35. 12
9	13	1084	0	41	1	36. 1～36. 12
10	13	1140	0	35	0	37. 1～37. 12
11	13	987	0	30	0	38. 1～38. 12
12	13	1111	3	31	2	39. 1～39. 12
13	13	1222	7	28	8	40. 1～40. 12
14	13	1354	2	49	8	41. 1～41. 12
15	13	1287	1	50	2	42. 1～42. 12
16	13	1275	0	48	8	43. 1～43. 12
17	13	1344	0	54	7	44. 1～44. 12
18	13	1163	0	51	5	45. 1～45. 12
19	13	1339	9	39	9	46. 1～46. 12
20	13	954	8	45	7	47. 1～47. 12
21	13	1210	4	39	17	48. 1～48. 12
22	13	1224	2	47	17	49. 1～49. 12
23	13	1501	0	71	17	50. 1～50. 12
24	13	1666	1	88	13	51. 1～51. 12

表17 原著の内訳

項目 巻	内 訳														計
	心	大血管	肺結核	肺腫瘍	非腫瘍性肺疾患・非結核性肺疾患	食 道	気管・気管支	縦 隔	胸乳壁・胸腺・胸膜	病態管理	体外循環	低 体 温	麻 酔	シ ョ ッ ク	
1～5	20 11.3%	4 2.2%	88 49.7%	6 3.4%	7 4.0%	6 3.4%	2 1.1%	1 0.6%	9 5.1%	7 4.0%	7 4.0%	2 1.1%	17 9.6%	1 0.6%	177
6～10	30 12.8%	8 3.4%	69 29.4%	29 12.3%	21 8.9%	3 1.3%	3 1.3%	1 0.4%	11 4.7%	12 5.1%	24 10.2%	13 5.5%	10 4.3%	1 0.4%	235
11～15	48 25.5%	12 6.4%	10 5.3%	9 4.8%	5 2.7%	22 11.7%	2 1.1%	4 2.1%	2 1.1%	12 6.4%	35 18.6%	24 12.8%	2 1.1%	1 0.5%	188
16～20	98 41.4%	19 8.0%	5 2.1%	21 8.9%	10 4.2%	10 4.2%	5 2.1%	2 0.8%	2 0.8%	18 7.6%	35 14.8%	5 2.1%	1 0.4%	6 2.5%	237
21～24	131 53.5%	19 7.8%	0 0%	7 2.9%	10 4.1%	3 1.2%	2 0.8%	9 3.7%	4 1.6%	20 8.2%	32 13.1%	4 1.6%	0 0%	4 1.6%	245
計	327 30.2%	62 5.7%	172 15.9%	72 6.7%	53 4.9%	44 4.1%	14 1.3%	17 1.6%	28 2.6%	69 6.4%	133 12.3%	48 4.4%	30 2.8%	13 1.2%	1,082

算頁には加算されない。第4回のように年に15号発刊されたこともある。掲載される原稿は学位を目的とした原著であったが、第12巻より綜説が、第9巻より症例報告が掲載されるようになった(表16)。

原著の内訳は図11に示すように心に関するものが327題で最も多く、ついで肺結核172題、体外循環133題などである。これを5巻ずつに分けてみたのが表17である。

図12は綜説の内訳、図13は症例報告の内訳である。

---